

ニュータウンのセンター地区

アピタ高蔵寺店と個性豊かな専門店からなるショッピングモール「サンマルシェ」。名前の由来は英語のサン(太陽)とフランス語のマルシェ(広場)を合わせたもの。幅広い世代のライフスタイルを応援する「生活創造拠点」として、また地域の人々が集う「文化・情報交流拠点」となっています。飲食店、衣料品店、スポーツクラブなど、ここに来れば何でも揃う活気のあるエリアとなっています。



サンマルシェ南館



アピタ館・サンマルシェ南館連絡通路



神戸珈琲倶楽部



ユニクロ



イエローハット



トイザラス



アピタ館



アピタ館内部



アピタ館フードコート



ロイヤルホスト



本の王国

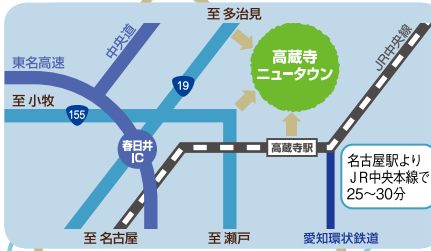


ジャンボエンチャョー

ニュータウンの施設

- 学校
- 集合住宅
- 公園

高蔵寺ニュータウンへのアクセスマップ



高蔵寺駅(北口)



高蔵寺駅(南口)



はあとふるライナー



公共施設を結ぶシティバス。東環状線で福祉の里、グリーンパレス春日井、市民病院、落合公園、総合福祉センター、市役所へ行けます。

名鉄バス



高蔵寺北口からニュータウンの各方面へ発着しています。深夜バス(24:01発)も走っています。

サンマルシェ循環バス(まるるん)



名鉄バスが通らない交通不便な地区を縫うように走る高蔵寺ニュータウンセンター開発が運営する循環バス。東部循環の石尾台ルートと西部循環の藤山台ルートがあります。1乗車100円。

■落合公園

「日本の都市公園100選」にも選ばれた公園。落合池を中心に、芝生広場や釣池、「フォーリー・水の塔」があります。春には1,000本の桜が咲き、「わいわいカーニバル」や「納涼まつり」が行われます。



周辺施設

ニュータウンの

■東海自然歩道

東海自然歩道は、東京と大阪の2つの国定公園を緑ゆたかな森や歴史・文化遺産などで結んでいます。総延長1,697kmのうち春日井では弥勒山、道樹山、大谷山を通っており、岐阜・愛知の境界線になっています。



■中部大学

ニュータウンから最も近い春日井の大学。7学部からなる総合大学。近年、地域と協働してその再生・活性化にも取り組んでいて、高蔵寺ニュータウンでもいろいろな活動が展開されています。シニア大学もあって、キャンパスで学ぶ住民も多い。



■東谷山フルーツパーク(名古屋市)

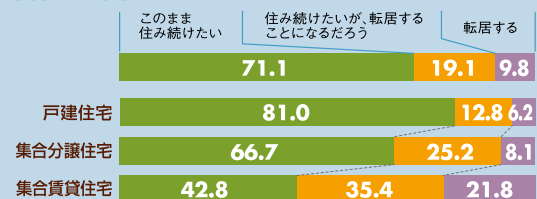
果物をテーマにした農業公園。15種類の果樹園や「世界の熱帯果樹温室」「くだもの館」があります。売店やレストランでは新鮮な果物が手に入り、絞ったジュースが飲める。4月のシダレザクラは見事。



ニュータウンに住んでいる人たちの意識

平成19年高蔵寺ニュータウンのこれからを考えるアンケート調査報告より

居住意向



イメージキーワード

高蔵寺ニュータウンという言葉から連想された言葉



ニュータウンの概要

面積	702 ha	
人口	45,217 人	平成27年4月
	男 21,946 人	
	女 23,271 人	
世帯数	19,853 世帯	

ニュータウンの歴史

昭和36年	「高蔵寺ニュータウン」の名称決定
昭和38年	施行区域決定
昭和41年	高蔵寺ニュータウン建設着工
昭和43年	藤山台団地入居開始
昭和45年	人口が1万人を超える
昭和50年	人口が3万人を超える
昭和51年	サンマルシェオープン
昭和56年	高蔵寺土地区画整理事業完了
昭和61年	人口が5万人を超える
平成11年	藤山台団地リニューアルに着手
平成18年	サンマルシェ循環バスの試験運転開始
平成22年	東部子育てセンター開設
平成23年	東部ほっとステーション開設
平成25年	藤山台東小学校と藤山台小学校が統合

ニュータウンの住宅地区

ニュータウンの中心部にはURを中心とする集合住宅の地区があり、周辺部には約9,000戸の戸建住宅が建っています。

UR賃貸住宅

1DK~6LDK

約8,000戸のUR賃貸住宅があり、1DKから6LDKまで豊富な間取りバリエーションがあります。一人暮らしから2世帯同居まで幅広く対応しています。



(お問い合わせ、UR高蔵寺募集案内所 ☎ 0568 (91)6112)

高齢者向け優良賃貸住宅(藤山台、岩成台、中央台)

高齢の人が安心して快適に暮らせるよう配慮された住宅で、満60歳以上の人が対象となっています。室内の段差をなくし、トイレや浴室に手すりを設置し、さまざまな設備がバリアフリー仕様となっています。緊急時対応サービス(有料)もあり、24時間365日安心です。家賃負担軽減の制度もあります。



ペット共生賃貸住宅(岩成台601号棟)

家族のようにペットと一緒に暮らすことのできる集合住宅。ペットくぐり戸付ドアなどの内部はもちろんのこと、共用部分にもペット広場などの工夫が凝らされています。ペットクラブもあって、ペットを通してみんながつながっています。



戸建住宅

宅地は100坪以上の規模で分譲されたため、比較的ゆったりとした落ち着いた緑の多い住宅地となっています。古いものでは40年以上が経っていて、建て替えなど更新の時期に来ています。また高齢化が進み空き家も多く見られ、若い世代への住み替えが期待されます。



編集後記

この冊子は、平成21年に行われたニュータウンミーティングの「高蔵寺ニュータウンには良いところがたくさんあって、それをもっと発信しよう」という発言がきっかけでした。

作成は春日井市から中部大学豊田研究室が委託を受け、「春日井くらしのニュース」を通しての呼びかけに集まった編集委員によって、たくさんの方たちの協力の下に23年3月に発行されました。

あれから4年の歳月が流れ、ニュータウンも変わりました。市が構成員となっている高蔵寺ニュータウン住宅流通促進協議会から委託を受けて、編集委員に声を掛け改訂作業に取り組みました。

作業を終えて感じた事、それはニュータウンが生きていること、現状に合わせてどんどん成長していることです。ニュータウンは予想以上に大きく変わっていました。特に高齢者への対応や「まちの〇〇館」など、半分以上が差し替えられました。

少子高齢化の進む中、この先どのような変わっていくのでしょうか。

この冊子作りのために、多くの団体、個人の方にお会いしました。皆さん、お忙しい中、快く取材にも応じていただき、感謝しています。素敵な出会いの中で心地よい刺激を受けたことをうれしく思っています。(上野)

ニュータウンをより住みやすいまちにするために、様々な活動が行われています。そのエネルギーは人の知恵とまちを愛する気持ちから生まれてきていると思います。この町の未来は明るいと思うと強く確信しています。(育)

この冊子を作った人たち

ニュータウンブック編集委員会

伊藤沙樹、上野サナエ
大島順子、太田麻美
太田省三、岡妙子
北折成美、末永啓
豊田育、町北文
三浦孝之

中部大学豊田研究室

豊田洋一、井戸祐美子
坂上佳代、福永侑希



改訂版編集委員会

上野サナエ、太田省三
豊田育、豊田洋一

終わりに

高蔵寺ニュータウンはとっても元気でした。

これが冊子を作り終えての感想です。

「もうニュータウンじゃないよね」ってよく言われます。

でもやはりニューなタウンだと感じました。

そこには新しい人々のつながりやまちの姿を

発見することができました。

この冊子がさらなるニュータウンライフに役立つことを心より願っています。

高蔵寺ニュータウンガイドブック

まちなび

平成23年3月 初版

平成28年 改訂

監修 中部大学 豊田研究室
編集 ニュータウンブック編集委員会、改訂版編集委員会
AD&Design ▲ 9GOTO DESIGNWORKS
Illust nori
発行 高蔵寺ニュータウン住宅流通促進協議会
春日井市企画政策部ニュータウン創生課
〒486-8686 春日井市鳥居松町 5-44
TEL: 0568 (85) 6048
URL: <http://www.city.kasugai.lg.jp/>